

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

横見学校
「学力向上実行プラン」

○命と人権を大切にし、たくましく生きる児童の育成

- ・学力向上に取り組む～わかる喜びを実感できる授業づくり～
- ・一人一人自己肯定感を高め、認め合い、支え合う集団づくり

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 藤本奈津美	委員	
	校長: 森下稲子	教頭: 佐野恭子
	教務主任: 板東教古	研修主任: 杉本峯代
特別支援教育コーディネーター: 西真衣		

校長

森下 稲子

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基本的・基本的な知識・技能の習得にまじめに取り組む児童が多いが、習得率にはばらつきがある。 ●長い文章や問題の意図を正確に読み取る力が十分ではなく、習得した知識や技能を適切に学習に生かすことができていない。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身に付け、漢字や計算の問題で85～90%以上の正答ができる。 ・身に付けた知識や技能を適切に使って、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・ポジティブな行動支援に基づく授業展開を行う。授業の中で“できた”につながるA(活動の前)・B(活動)・C(活動の後)を工夫する。 ・漢字・計算・読み取りのドリル学習や毎日の音読などを継続して行う。 ・ノート指導や日記指導の充実を図る。	・タブレットを活用し、引き続き基礎基本の学力(漢字・計算・熟語や言語・文法など)をつけさせる。 ・文の構成や全体の流れをつかむ力をつけさせる。		

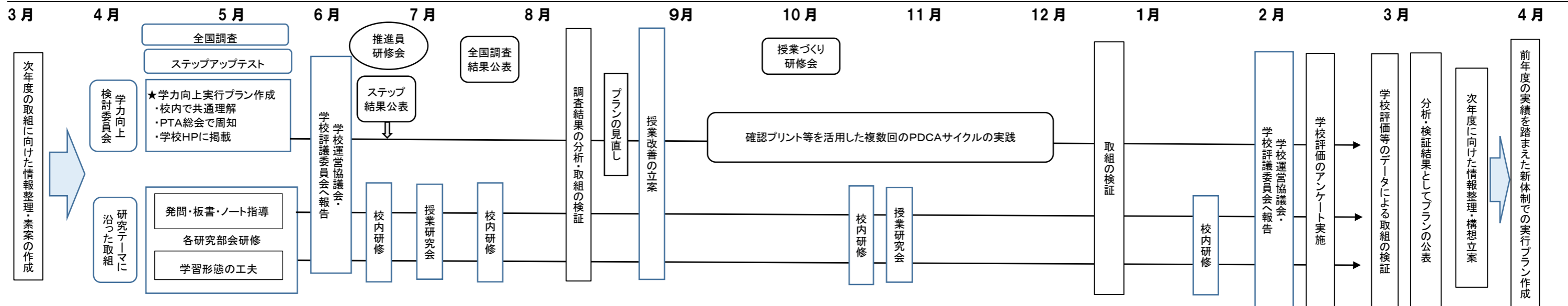
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○音読や発表による表現には意欲的で、方法や手順がわかっている学習には、まじめに取り組んでいる。 ●自分の考えを筋道立てて説明したり、文章に書いたりして表現する力が十分とは言えない。	・根拠や理由、考えに至る過程を明確にしなが、筋道立てて自分の考えを表現し、伝え合えることができる。 ・様々な考えや意見を比較しながら、考えを深め、多様な表現方法を身に付けることができる。	・考える時間を十分に確保して自分の考えが持てるように支援し、ペア学習やグループ学習を取り入れ、考えを共有したり、比較したりする場を設ける。 ・自分の思いや考えを書く場面を増やすようにする。	・類似と対比に気をつけてグラフや資料を読み取らせる機会をもたせる。 ・新聞を活用し、要約や記事の感想を書く活動を行う。 ・読書を奨励し、長文を読むことに慣れさせる。		

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○決まりを守って落ち着いた態度で学校生活を送り、与えられた課題にまじめに取り組んでいる。宿題をする習慣がほぼ定着している。 ●自分から課題を見つけて取り組むことが苦手である。集中が続かず、話を十分に聞くことができない児童がいる。	・基本的な生活習慣を身に付け、落ち着いた学習に取り組むことができる。 ・「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習に取り組むことができる。 ・自主学习ノートを使い、自分で考えて予習や復習を進んで進めることができる。	・睡眠時間の確保やバランスのよい朝食の大切さ、放課後の過ごし方の見直しなどについて、児童と保護者に啓発する。 ・「家庭学習の手引き」を配布し、家庭との連携を図りながら、各学年に応じた生活や学習の仕方を指導する。 ・自主学习ノートの提出を継続し、定期的に指導を加え、内容の充実を図る。	・主体的に学習に取り組めるような課題設定を子どもの実態に合わせて行う。		

令和5年度 学力向上ロードマップ



学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

〇〇学校
「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組みたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを发表或し、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れ、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前には個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつづやきを全体で共有し、課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面での言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいかなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できるところはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのかが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまづきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なときもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和5年度 学力向上ロードマップ

